

実践団体情報

記入日	西暦 2022 年 1 月 20 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	減災 Days
代表者名	細谷真紀子
プラン全体のタイトル	幼児からスタートする切れ目ない防災教育 ～日常コミュニティがいのちを守る～
電話番号	080-1849-0606
メールアドレス	gensaidays@gmail.com
実践団体の説明	防災・減災活動は未来の笑顔の為にあるということを信念に、防災・減災を手段に人づくり・まちづくりに関わる活動を行っています。人とまちをつくる為に必要な防災・減災の視点・手段を基に、より良い未来の為にコミュニティづくりの為に様々な人、団体と共に防災教育を行っています。
所属メンバー	渡邊史・松本明代・山本陽
活動地域	東北地方・山形県
活動開始時期・結成時期	2017 年 9 月
過去の活動履歴・受賞歴	山形県内や東北地方を中心にコミュニティ（行政や自主防災会、各種団体等）に対する防災教育を行っています。

プラン全体の概要	プランの目的は「自分たちの未来を、自分たちで選択し、社会に関わる「視点・生きる力」を防災教育を通じ身につけること」。発達の段階に添いアクティブラーニング型の学修者の主体的で能動的な資質能力を育成する為、興味関心から知識・技能を結び、思考・判断し、表現する場を設けます。自らのいのちを守ること、家族や周囲の人のいのちを守ること、社会の一員として今できることを探求します。
----------	--

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	学校調整	教材作成	
5月	学校調整（コロナ対応）		
6月	〃		
7月	〃		
8月	〃		
9月	校長会資料作成	教材作成	校長会研修（防災教育・学校安全）
10月	実施①	〃	豊田小・長崎小
11月	実施②・③・④	〃	〃
12月	実施④・アンケート実施	教材・アンケート作成	〃
1月	実施⑤		長崎小・なかやま保育園
2月	実施⑥	展示・発表準備	〃
3月	実施まとめ	〃	展示・発表（会場未定）

プラン全体の反省点・課題・感想	<p>動画作成を求められることから、記録については大量のデータの蓄積となった。それ自体、研究・検証には役立つが、費用負担や作業量が増えることを前提にスケジュールや予算を組む必要があると感じた（コロナ禍で学校の行事や授業等も年度後半にずれ中、実施が当初より後送りになったことも要因のひとつだった）。</p>
今後の活動予定	<p>子どもを通じた家庭内の防災意識の高まりを受け、年度内に実施校内または町内での成果報告・展示発表会を計画中。また来年度の防災教育チャレンジプランの採択を受け、翌年度の早い段階での連携が出来る様、各校と調整中。今年度実施学年への継続的な防災教育の実施と検証、新規学年への防災教育を続けていく。また幼小、小中の防災教育の連携を模索している。</p>

実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2022 年 1 月 20 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	減災 Days
実践番号	01
タイトル	川のはたらき・災害を知って、まちを守ってみよう！
実践担当者のお名前	細谷真紀子・松本明代

実践にかかった金額	円 非公開 (個別にお問い合わせください)
実践の準備にかかった時間	1 日
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 10 月 13 日～西暦 2021 年 10 月 14 日
実践の所要時間	6 時間
実践の運営側で動いた人の人数	5 人
防災教育の対象者の属性	小学生 (高学年)・教職員/保育士等
防災教育の対象者の人数	約 77 人
実践を行った都道府県と市区町村	山形県 中山町
実践を行った具体的な場所	中山町立長崎小学校・中山町立豊田小学校
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	Em2 whole system (河川モデル)

達成目標	最上川が生活に密着し、令和 2 年 7 月豪雨被害を間近に見た子どもたちに川のはたらき、恵み、災害を知り、自然に対してどう人間社会が共存していくのかを思考する視点を養う。	
どの力を身につけよ うとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<p>実践内容・方法</p>	<p>理科で身につけた川のはたらきを河川モデルで疑似体験することにより知識の定着を図り、災害の仕組みを知り、河川モデルで疑似体験をする。その見聞・知識を活かし河川モデル内でまちを守る術をグループワークで検討する。各班で検討したことを実施検証し、まちは本当に守れるのか？どの様なことが想定されて、実施にはどうなったのか、災害と体験・知識を結ぶ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
<p>得られた成果</p>	<p>子どもたちの知識の定着や川への興味を促す目的であったが、実際は流域治水や堤防安全神話、河川管理や避難行動までと、子どもたちの口から出る防災の知識がこちらが想定する以上にあふれ出す結果となった。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>大いに</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦労・工夫</p>	<p>上記にも記載した通り、こちらの想定以上の川を守る提案や避難行動など次の実施に繋がる布石となった。レンタルに費用がかかることはやはり課題である。</p>	

<p>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</p>	
<p>関係者の名前・団体名</p>	<p>リトルリバーリサーチ&デザインジャパン</p>
<p>関係者の説明</p>	<p>河川モデルのレンタル・デモンストレーション</p>
<p>関係者の連絡先</p>	<p>akiyo.lrrd@gmail.com</p>

<p>★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ</p>	
<p>伝えたい相手</p>	<p>理科教育に関わる先生方・川のまちに住む人たち</p>
<p>伝えたい内容</p>	<p>川の特性と水害との関わり</p>

記入日	西暦 2022 年 1 月 20 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	減災 Days
実践番号	02
タイトル	まちにはどんな災害がおきるの？探ってみよう！
実践担当者のお名前	細谷真紀子

実践にかかった金額	円
	非公開 (個別にお問い合わせください)
実践の準備にかかった時間	数週間
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 11 月 16 日・西暦 2021 年 11 月 24 日
実践の所要時間	6 時間
実践の運営側で動いた人の人数	5 人
防災教育の対象者の属性	小学生 (高学年)・教職員/保育士等
防災教育の対象者の人数	約 77 人
実践を行った都道府県と市区町村	山形県 中山町
実践を行った具体的な場所	中山町立長崎小学校・中山町立豊田小学校
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	my 減災マップマイスター (減災ラボ)

達成目標	学区内に想定されるハザードや災害時に役に立つ物・場所・人、災害時に危険な場所などを知り、災害を想定できる想像力を養い、具体的な行動を想定する。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<p>実践内容・方法</p>	<p>My 減災マップを作成し、学区内や自宅・通学路で想定される災害を知る。またこれまでの災害の事例により想像を膨らませる。家族にインタビューした令和2年7月豪雨時の気持ちなどを踏まえ、大事なものは何か？その為に自分自身はどんな行動を行うか宿題を行う。</p>	
<p>得られた成果</p>	<p>自身の身の回りで起きる災害への認識が深まった。災害を知ることで具体的な行動を口にししたり、作成したマップを見比べて万が一の共助を対話する姿などが見られた。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>大いに</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>課題・苦労・工夫</p>	<p>思考・判断・表現・人間性に関しては一長一短に変化するものではなく家庭も含めた生活環境に左右される為、課題が残る児童もあった。しかし回を重ねることで個々の表現が変化する姿も見られたことは先生方との関わりや実施の工夫が実った結果ではないかとも考えられる。</p>	



<p>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</p>	
<p>関係者の名前・団体名</p>	<p>減災ラボ</p>
<p>関係者の説明</p>	<p>防災・減災教育</p>
<p>関係者の連絡先</p>	<p>info@gensai-lab.com</p>

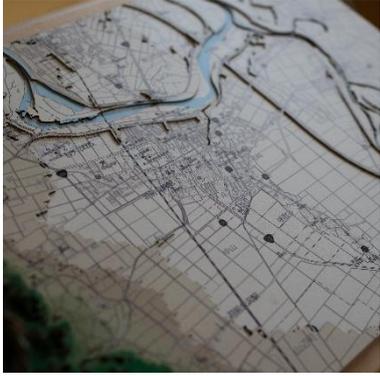
★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ

伝えたい相手	
伝えたい内容	災害に対しての想像力

記入日	西暦 2022 年 1 月 20 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	減災 Days
実践番号	03
タイトル	どうやったらいのちやまち・暮らしを守れる?①
実践担当者のお名前	細谷真紀子

実践にかかった金額	円
	非公開 (個別にお問い合わせください)
実践の準備にかかった時間	数週間
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 11 月 25 日・西暦 2021 年 11 月 29 日
実践の所要時間	6 時間
実践の運営側で動いた人の人数	5 人
防災教育の対象者の属性	小学生 (高学年)・教職員/保育士等
防災教育の対象者の人数	約 77 人
実践を行った都道府県と市区町村	山形県 中山町
実践を行った具体的な場所	中山町立長崎小学校・中山町立豊田小学校
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	学区内に想定されるハザードや災害時に役に立つ物・場所・人、災害時に危険な場所などを知り、災害を想定できる想像力を養い、具体的な行動を想定する。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<p>実践内容・方法</p>	<p>My 減災マップでの経験で広域避難の必要性を感じた子どもたち。GIS を利用したデジタルマップと段ボールジオラマを利用したアナログ的手法を組み合わせ土地の地形とハザードの情報を見比べる。その上で令和2年7月豪雨時の避難行動を振り返り、自分の避難行動について考えてみる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>	
<p>得られた成果</p>	<p>災害は広域的に広がることを知り、避難行動を変化させる子どもたちが現れた。また広域的に早期避難が必要という事への気づきがあり、家族にその情報・知識を伝えたいという気持ちが芽生えた。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>大いに</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<p>ICT の普及によりデジタル機器の良さが前面に出るが、今回はアナログ教材との相乗効果を検証した。やはりデジタルでの立体的な理解は機器の操作に慣れていることが必要であったが、そのムラを解消したのがアナログ教材だった。</p>	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について

<p>関係者の名前・団体名</p>	<p>段ボールジオラマ</p>
<p>関係者の説明</p>	<p>防災・減災教育</p>
<p>関係者の連絡先</p>	<p>https://www.bosai-diorama.or.jp/</p>

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ

<p>伝えたい相手</p>	
<p>伝えたい内容</p>	<p>既存教材の組み合わせで起きる相乗効果</p>

記入日	西暦 2022 年 1 月 20 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	減災 Days
実践番号	04
タイトル	どうやったらいのちやまち・くらしを守れる?②
実践担当者のお名前	細谷真紀子

実践にかかった金額	円
	非公開 (個別にお問い合わせください)
実践の準備にかかった時間	数週間
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 11 月 25 日・西暦 2021 年 12 月 1 日
実践の所要時間	6 時間
実践の運営側で動いた人の人数	5 人
防災教育の対象者の属性	小学生 (高学年)・教職員/保育士等
防災教育の対象者の人数	約 77 人
実践を行った都道府県と市区町村	山形県 中山町
実践を行った具体的な場所	中山町立長崎小学校・中山町立豊田小学校
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	行動を実行するために身近な人へどう自分の思いを伝えていくのか？ 自分の災害や避難に対する思いを表現する・言語化することを目標とする。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法	<p>自分の避難行動をグループワークで共有し、身近な家族を想定して避難行動に対する思いを言語化する。その為にグラフィックレコーディングの手法を利用し、防災に対する思いを書き出し誰かに伝わるということを経験し、自分たちの思いもグラフィックレコーディングして表現していく。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
得られた成果	<p>グループワークにより、人は必ず誰かと繋がりのちを守るという事への気持ちが芽生え、相手に伝えたいという気持ちに真摯に向き合う姿が生まれた。</p>	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	<p>自分たちの対話の様子をグラフィックレコーディングされることで思いが表現でき、相手に伝わることを知るとい部分では東北大学の減災スタンプラリーを使用した。また自分たちが表現する際には書き進める際にスタッフがこまめに声掛けを行い作業を促す支援を行った。</p>	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について

関係者の名前・団体名	稲村理紗（グラフィッカー）
関係者の説明	まちづくりファシリテーター
関係者の連絡先	skiplab55@gmail.com

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ

伝えたい相手	
伝えたい内容	コミュニティファシリテーションと教育との連携

記入日	西暦 2022 年 1 月 20 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	減災 Days
実践番号	05
タイトル	いのちをまもるへんしんうんどう!
実践担当者のお名前	細谷真紀子

実践にかかった金額	円
	非公開 (個別にお問い合わせください)
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	西暦 2022 年 1 月 12 日
実践の所要時間	1 時間
実践の運営側で動いた人の人数	3 人
防災教育の対象者の属性	保育園児・教職員/保育士等
防災教育の対象者の人数	約 43 人
実践を行った都道府県と市区町村	山形県 中山町
実践を行った具体的な場所 例: ○○小学校体育館	なかやま保育園
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標	自分のいのちを守る大切さを知り、災害と恵みの存在に気付く。うんどうを通じいざという時の素早い行動を身につける。	
どの力を身につけようとしたか?	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<p>実践内容・方法</p>	<p>災害と恵みの存在に気付く絵本の読み聞かせを導入で実施（宮城県防災士会作成リオンを抜粋）</p> <p>その後、生き物などに返信したり、ストレッチなども取り入れ、身を守るポーズとその意味をお話した。</p> <p>うんどうとリズムを取り入れ、楽しみながら知識を身につける体験ができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
<p>得られた成果</p>	<p>ぼうさいをしらない！と言っていた子どもたちでしたが、また1年生になってもやってみたい！と怖がるのではなく、楽しみながら体現してくれました。</p>	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>大いに</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<p>新しい知識の習得の場がなかなか無いのかもしれないと感じました。</p> <p>また幼児に対しての教育はコロナ禍だいぶ制約があったと感じました。</p>	

<p>★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について</p>	
<p>関係者の名前・団体名</p>	
<p>関係者の説明</p>	
<p>関係者の連絡先</p>	

<p>★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ</p>	
<p>伝えたい相手</p>	
<p>伝えたい内容</p>	<p>環境を活かし、日常の保育に取り入れられる防災</p>